

幼児の音楽表現活動に関する一考察

－保育実習アンケートを通して－

大森 由美子 (幼児音楽)

はじめに

筆者は前回、6月に幼稚園実習を行った学生達へのアンケート調査を通して園で実際に歌われている曲目を知り、それらの分析結果を学生に対する指導にいかしていくため検討を行った。

そこでは、昔ながらの童謡、唱歌が世代を超えて歌いつがれている一方で、テレビの幼児向け番組などから、日々生まれている新しい歌も数多く歌われていた。

学生は古くから愛唱されている子どもの歌と共に、それらの新しい歌も学習していく必要があることがわかった。

今回、11月に、保育実習を行った学生達へのアンケート調査を通して、保育所や施設等で歌われている曲目を知り、それらの分析から得た結果を学生に対する指導にいかしていくとともに、幼稚園と保育所、施設等で子ども達の音楽表現活動についても比較検討を加えるものとする。

方法

本学の児童教育学科の学生を対象者として、保育所、施設等で歌われる曲に関するアンケート調査を行った。対象者の属性、実習期間は以下の通りである。

1. 対象：本学児童教育学科幼児教育専攻
2年生 76名
2. 実習期間：平成22年11月8日～11月20日
3. 実習所：保育所 39ヶ所
施設 23ヶ所
4. 調査日時：平成22年11月30日
本学の幼児教育専攻2年生で11月の2週間

に実習を行った学生は76名あり、終了後、アンケートに回答した学生はそのうち68名である。

実習所は全62ヶ所で、保育所が39ヶ所、施設が23ヶ所である。

内訳は保育所が岐阜県33、愛知県1、三重県1、滋賀県2、福井県2である。これに対して施設は岐阜県18、愛知県5となっている。

また、同一の園で実習を行った学生が各2～5名ある場合もあるため、同様な回答が複数含まれている場合もある。

アンケートは実習先の保育所、施設等で実際に用いられていた歌の曲名を実習終了後に記入させたものである。

集計は、曲の内容から「園生活のうた」、「行事のうた」、「季節のうた」、「いろいろなうた」、「あそびうた」、「その他」に分類して行った。(表1)

結果および考察

園生活のうた

ここでは、「朝のうた」に始まり、「おかえりのうた」、「さよならのうた」に至るまで、実にさまざまなうたが園生活のそれぞれのシーンにあわせて歌われている。

「おべんとう」のうたは「おべんと、おべんと」の歌詞を「給食、給食」と言いかえて歌われているようだ。園によっては「おやつのうた」や「ごちそうさまのうた」を歌うところもある。

誕生会には「お誕生日のうた」が歌われ、また「どこでしょう」の歌が出欠取りに際して歌われていた。

さらに、オリジナルの園歌をもつ園があり、仏教関係の園では「ほとけさま」、「ののさま」、「おまいるのうた」なども毎日歌われている。

表1 主な曲名と件数 (50音順)

曲の種類	曲名	件数	
園生活のうた	朝のうた	7	
	おかえりのうた	7	
	お誕生日のうた	4	
	おべんとう (給食)	3	
	おやつのうた	3	
	さよならのうた	3	
行事のうた (七五三)	七五三サンバ	3	
(クリスマス)	赤鼻のトナカイ	3	
	あわてんぼうのサンタクロース	3	
	クリスマスのうたが聞こえてくるよ	3	
季節のうた	きくの花	4	
	北風小僧の寒太郎	3	
	きのこ	5	
	こぎつね	3	
	たきび	4	
	どんぐりころころ	21	
	まつぼっくり	19	
	まっかな秋	4	
	もみじ (赤い赤いもみじの葉)	6	
いろいろなうた	アンパンマンのマーチ	7	
	ガンバリマンのうた	3	
	さんぽ (「となりのトトロ」より)	10	
	となりのトトロ	3	
	どんな色が好き	4	
	バスごっこ	3	
	ホ!ホ!ホ!	3	
	山の音楽家	5	
あそびうた	一本橋こちょこちょ	3	
	大きな栗の木の下で	5	
	お寺の和尚さん	3	
	貨物列車	3	
	カレーライス	4	
	トントントントンひげじいさん	3	
	ピカチュウ	3	
	やきいもグーチーパー	25	
その他	1~2件の曲	106曲	126
合計	141曲		321

このように保育所では、歌を通して、さまざまなしつけを行っている様子がかがえ、これらのことは幼稚園のアンケート調査でも同じような点が見られた。

行事のうた

今回の実習は11月初めからの2週間であったため、七五三の歌や、クリスマスにちなんだ歌が多く歌われている。七五三の歌は昔から歌われている「七五三」(図1)の歌よりも、現在ではリズムカルな感じの新しい「七五三サンバ」(図2)の方がよく歌われているようである。

こちらの曲の方が、現代の子ども達には親しみやすく感じられるものと思われる。同じようなことは前回の幼稚園実習後のアンケート調査でも見受けられた。

即ち、虫歯予防デー(6月4日)に際して、従来から歌われている「はをみがきましょう」に対し、「ねずみのはみがき」や「虫歯建設株式会社」等の斬新な曲が子ども達に喜ばれていた。また、時の記念日(6月10日)でも、これまで親しまれてきた「時計のうた」の他に「くじらの時計」のようなコミカルな感じの楽しい曲もよく歌われていた。

一方、クリスマスは数ある行事の中でも最も子ども達に親しまれている一大行事と言えよう。歌も「赤鼻のトナカイ」、「サンタが町にやって

くる」、「ジングルベル」等の定番の外国の歌とともに、「あわてんぼうのサンタクロース」や「クリスマスうたが聞こえてくるよ」等の日本生まれの曲もよく歌われている。

季節のうた

ここでは季節がら、「どんぐりころころ」や「まつぼっくり」などの昔ながらの秋にちなんだ曲が数多く歌われている。また「もみじ」は、一般によく知られている「秋の夕日に照る山もみじ…」の歌ではなく、「赤い赤いもみじの葉…」の歌詞から始まる愛らしい歌(図3)の方が、保育園ではよく歌われているようである。作詞、作曲者はどちらも同じ高野辰之、岡野貞一である点が興味深い。

いろいろなうた

現在、テレビからは多くの曲が生まれている。ここで多く歌われている「アンパンのマーチ」(それいけ! アンパンマン)は子ども達の大好きなアニメソングであり、他にも「おどるポンポコリン」(ちびまる子ちゃん)、「ドラえもんうた」、「勇気100%」(忍たま乱太郎)、「ゲゲゲの鬼太郎」なども親しまれている曲である。また、NHKを代表する看板番組の一つである「おかあさんといっしょ」からは1959年の放送

七 五 三

あかるくはずんで ♩=108 戸倉ハル作詞
小林つや江作曲

お か あ さ ん お か あ さ ん
は や く い き ま し ょ し ち ご さ ん
う れ し い う れ し い し ち ご さ ん

図1 「七五三」

「うたって、つくって、あそぼう」音楽之友社

七五三サンバ

♩=132 Bb F7 阿部直美作詞・作曲

1. 2. みつ つ になつた よ { 1. もう なか ない よ き } い つ つ に

なつた よ { 1. か け っ こ は や い } な な つ に なつた よ

{ 2. じ て ん し ゃ じ ょ う す }

{ 1. と も だ ち い っ ぱ い } き ょ う は し ち ご さ ん サ ン

{ 2. と び ば こ と べ る ん だ }

バ サ ン サ ン み な さ ん お め で と サ ン バ

サ ン サ ン み な さ ん げ ん き な サ ン バ サ ン サ ン サ ン サ ン

し ち ご さ ん し ち ご さ ん サ ン サ ン バ

図2 「七五三サンバ」 「うたって、つくって、あそぼう」音楽之友社

もみじ

♩=104 D V A 絵本唱歌

あ か い あ か い も み じ の は

も み じ の は っ ぱ は き れ い だ な

ぱ っ と ひ ろ げ た あ か ち ゃ ん の

お て て の よ う で か わ い い な

図3 「もみじ」 「うたって、つくって、あそぼう」音楽之友社

開始以来、実にたくさんのうたが子どもたちに親しまれている。

これらのことから、テレビが子ども達の生活にしっかりと溶けこんでいる様子がうかがえる。またスタジオ・ジブリのアニメーション映画「となりのトトロ」の中で用いられる「さんぽ」は幼稚園実習のアンケートでも大人気の曲であった。

あそびうた

今回の保育実習でも多くのあそびうたがよく行われていた。なかでも「やきいもグーチャーパー」は季節がらもあって特に人気の曲である。子ども達が何回も喜んでジャンケン遊びに興じている様子が、実習生のアンケートに多数報告されていた。

世界がひとつになるまで

♩=76~84

松井五郎 作詞
馬飼野康二 作曲
原由多加 編曲

mp

まぶしいー ひざしがー きみの なまえを よぶ
はじめてー で あったー あの ひ あのばしょ から

おんなじー きもちでー そらが みえるよ つら
いろんなー みらいがー あるき はじめた なぜ

いときー ひとりき りで なみだをこらえ ないで }
みんなー このちきゅうに うまれてきたの だらう }

せかいがひとつになるまで ずっとてをつないでいよう {
あた
おも
とき

mp

たかいーほほえみでー もうすぐ ゆめがほんとうになる かーら
いでのーまぶしさにー まけない とても すてきなゆめが あーる
めきはーたからものー いつでも あいがあしたをまもる かーら

Fine

図4 「世界がひとつになるまで」

「音楽指導教本」教育芸術社

また、一本橋こちょこちょ、ずいずいずっころばし、お寺の和尚さん、花いちもんめ、なべなべそこぬけ等の昔から伝わるわらべうたも根強い人気があることがうかがえる。「一緒にすると何回も何日も楽しそうに遊んでいて、嬉しかった」との報告があった。

ところで、今回の保育実習は大きく二つに分けられる。その一つは保育所実習（幼稚園等を含む）であり、他の一つは施設実習（障がい児施設等を含む）である。

これら二つの実習について学生の記述をもとに印象に残った例を次に述べることにする。

ある保育所実習で「世界が一つになるまで」[忍たま乱太郎]より) (図4) を歌い終えた男の子が「これを歌うと涙が出てくる」と言った。その言葉を聞いた実習生は「歌詞の意味を十分に理解していなくても、何か伝わるものがあるのではないかと感じ「自分もそれを聞いて泣きそうになった」と記述していた。

この曲には、「つらい時、一人きりで涙をこらえないで、世界が一つになるまで、ずっと手をつないでいよう」など子どもにもわかりやすいことばで、お互いを思いやる気持ちやいたわりの心が詩全体にあふれている。

このことは、子どもが歌を通して音楽に親しむことにより、豊かな感性を育み、表現力の芽生えを養っているといえよう。そして歌から美しさや優しさを感じ、心を動かされているのではないだろうか。

子どもは決して未発達で不十分な存在などではなく、その心の奥底に実は極めて豊かな可能性と生きる力を内包していることを示す一例といえよう。

そして、そのことに感動した実習生が「自分もそれを聞いて泣きそうになった」のだと思われる。

もう一例は、ある障がい児の施設実習についてである。「話すことのできない障がい児で、手あそびが好きだと聞いたので、毎日、手あそびをやると楽しそうにまねをして翌日には覚えていた。最終日には歌いながらやってくれてうれしかった」と記述している。

そして「障がい児と初めて関わり、勉強になった。歌や手あそびが好きの子が多く、ことばを発することのできない子でも、歌や手あそびを通してコミュニケーションがとれることを学んだ」と述べている。

さらに「音楽をきいて落ちつく子がいた」「音楽になると楽しそうにしている子がたくさんいた」「子ども達はほんとうに歌が大好きだと知った」などの記述も見られた。

そして「障がい児は音楽がとても好きで、よい療育になることを学んだ。手あそびや手をたたいて歌える歌がとても反応がよい」ことに気づいている。

実習生はこのようにして大学では得られぬさまざまな貴重な体験を通して「保育の大変さと素晴らしさを感じることができてよかった」と述べている。

実習とはこのように子どもの内面の動きに気付き、心を寄り添わせることにより、実習生の心にも保育士として、人間としての、さらなる成長を促していくものといえよう。

<引用・参考文献>

- ・大森由美子「幼児の音楽表現活動から見た学生の歌唱指導のあり方—実習生のアンケート調査を通して—」『東海学院大学短期大学部教育実践報告 2010』pp.5-11
- ・大森由美子「子どもの歌唱表現に関する一考察—幼稚園における歌唱指導を通して—」『東海学院大学短期大学部紀要 第37号 2011』pp.41-48
- ・大畑祥子編著『保育内容 音楽表現』1991 建帛社 東京
- ・幼児表現教育研究会編『うたって、つくって、あそぼう』1989 音楽之友社 東京
- ・『おかあさんといっしょ ピアノ・ソロアルバム』2005 ケイ・エム・ピー 東京
- ・奥田恵子 他『楽しい音楽表現』2009 圭文社 東京
- ・小林美実編『こどものうた 200』1975 チャイルド本社 東京
- ・小林美実編『続 こどものうた 200』1996 チャイルド本社 東京
- ・南曜子編『心を育む子どもの歌』2005 教育芸術社 東京

- ・森田百合子 他『改訂 幼児の音楽教育 表現◆音楽』
1990 教育芸術社 東京
- ・『アニメーション・ソング大全集』2008 ドレミ楽
譜出版社 東京
- ・保坂恵美「保育者採用試験を通して見るピアノ指
導のあり方」～『東海女子短期大学紀要』第25
号 1999
- ・東海女子短期大学児童教育学科幼児教育専攻「保
育実習に必要な養成カリキュラムの検討」～『東
海女子短期大学紀要』第27号 2001
- ・『幼稚園 教育要領解説』文部科学省（フレーベル
館 2008）
- ・『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベ
ル館 2008）